

2018年(平成30年)1月23日(火曜日)

「三島市、土地売却に便宜」

駅南口再開発 市民ら監査請求へ



東急がホテルの建設工事を進めているJR三島駅南口の西街区＝三島市一番町で



三島市のJR三島駅南口の再開発事業をめくり、市が市土地開発公社に西街区の土地を不当な安価で東京急行電鉄に売却させ、市に

損失を与えたなどとして、事業に反対する地元住民らでつくる「三島駅南口の整備を考える市民の会」が今月末にも、豊岡武土市長に對して損失の補填を求める住民監査請求をすることが分かった。住民監査請求が棄却された場合は、住民訴訟を行う方針。

同会は「公社は東急に土地を約三億六千万円安くして売却し、建物の解体費など約九千万円は市が負担した。合わせて約四億五千万円の便宜を図った疑いがある」と指摘している。

西街区の事業は、公社が所有していた三島市一番町の土地〇・三四鈔を再開発するもので、市の公募で事業者に東急が選ばれた。東急の事業は地上十四階建て二百室のホテルを整備する内容で、現在は二〇二〇年四月の開業に向けて建設工事が行われている。公募には、東急のみが応募した。

市民の会が問題にしているのは、公社が売却した西街区の土地〇・三四鈔のうち〇・三一鈔。約四億円で東急に売却したが、同会が独自に行った不動産鑑定価格より約三億六千万円安いという。さらに、東急が負担すべき駐輪場の整備費や、公衆トイレの撤去移動費、市観光協会と観光案内所の建物の解体・移転費計約九千万円を市が支出した。

(佐久間博康)